

# 中国国際交流研修会に参加して

木曾山林高等学校 林業科3年生 ○佐々木正悟  
杉村 知春

はじめに

(社)国土緑化推進機構が企画主催する、林業関連学科を専攻する全国の高校生を対象とする、「林業専攻高校生国際交流研修会」事業の生徒募集の案内が送られてきたことから、本校の生徒4名が、平成14年2月4日(月)～2月8日(金)の期間、中国を視察研修してきた研修報告です。

## 1 参加生徒

松下 哲也、佐々木正悟、田野上 祐一、杉村 知春(写真-1)



写真-1 松下、佐々木、田野上、杉村



写真-2 中国研修参加者

## 2 研修内容

私たちは(社)国土緑化推進機構が主催する第2回林業専攻高校生国際交流研修会に平成14年2月4日から5日間、北海道の岩見沢農業高校、山梨県の農林高校、上伊那農業高校の各高校の林業科の生徒達と中国研修に参加してきました。(写真-2)

この研修の目的は

- ①森林生態系の保全を中心に植林緑化を推進している中国の森林や植林緑化事業の現状把握
- ②森林資源造成活動への参画
- ③現地高校生との交流

を通して、森林・林業に関する国際的な知見を得ることでした。

私たちが中国で研修した内容は

- ①日本大使館訪問
- ②日中緑化協力記念林見学と記念植林
- ③高崖飛播造林区見学
- ④長江中上流水土流失防止林見学
- ⑤林業高校生交流会
- ⑥三峡ダム見学
- ⑦万里の長城見学

です。これらについて、紹介していきたいと思います。

### (1) 日本大使館訪問

予定より1時間遅れで北京に到着して、早速市内見学をしました。天安門広場(写真-3)はテレビでおなじみの毛沢東氏の肖像がありました。テレビで見るより大きく大陸的な広さを感じました。

日中国交正常化30周年であることを記念し、まず最初に日本大使館を表敬訪問しました。日本大使館では、農林水産省から行っている枝元参事官(写真-4)より中国の森林の現状を聞いて初日は終了しました。



(写真-3) 天安門広場



(写真-4) 枝元参事官

### (2) 日中緑化協力記念林見学と記念植林 (写真-4、5、6)

日中緑化協力記念林は、日本が平成12年から環境保全を目的とする植林緑化活動に協力をしていることを記念して北京市郊外に設立された場所です。ここで見学とコノテガシワの記念植樹をしました。



(写真-4)

日中緑化協力記念碑



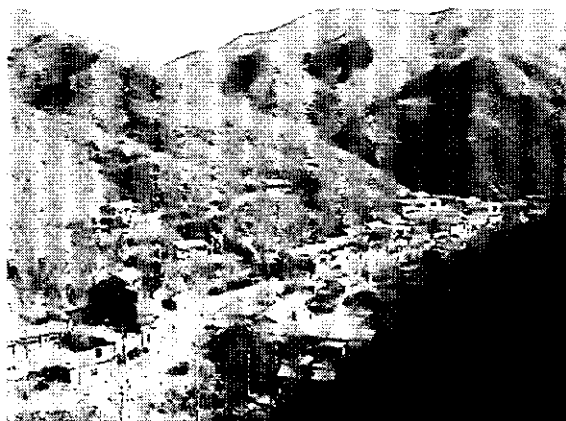
(写真-5) 日中緑化協力記念林



(写真-6) コノテガシワの記念植樹

### (3) 高崖飛播造林区見学 (写真-6、7)

北京郊外の森林地帯は急峻で地質が悪く、年間の降水量も100から500mmときわめて少なく、荒廃が著しい地域です。そのため高崖飛播造林区では荒廃した土地に飛行機によるアカシア・アブラマツなどの播種造林を行い、都市部に近い荒廃地の緑化に力を入れ森林整備をしていました。



(写真-6) 高崖飛播造林区

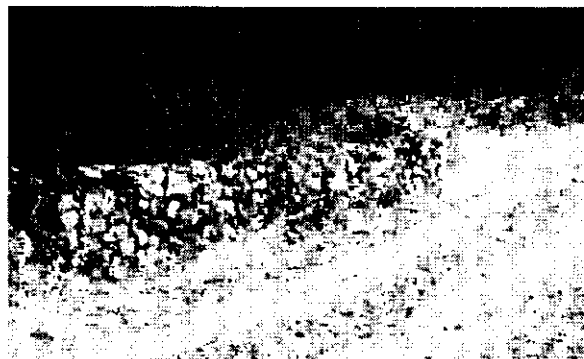


(写真-7) 高崖飛播造林区碑

また、家畜が森林に入らないようにしたフェンスを設けて「封山育林」を実施しています。ここでは石積み(写真-9)で代用されています。



(写真-8) 封山育林碑



(写真-9) 石積みのフェンス

### (4) 長江中上流水土流失防止林見学

長江中上流水土流失防止林です。宜昌市街地の対岸は、長年における過度の伐採と急傾斜地の農地開

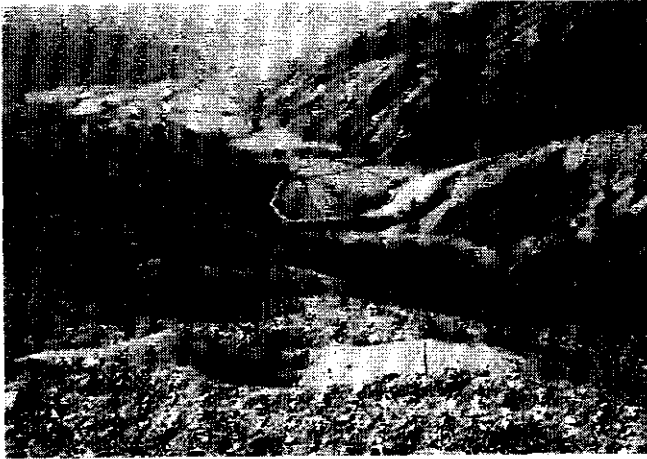


(写真-10、11) タイサンボクの植樹



発で荒廃し、長江に大量の土砂が流れ込むため、これを防止するため日本の助成で植林が進められた場所です。ここで宜昌林業高校生24名と二人一組になり2時間の植林を行いました。植樹した木はタイサンボクです。(写真-10、11)

現地の案内の人の説明の中で「退耕還林」(写真-12)という言葉をよく耳にしましたが、傾斜が25度以上の耕地は森林や果樹園に戻す政策の事で、他の場所に行っても必ず説明があり、中国の森林・林業事情の一端があらわれています。



(写真-12)

#### (5) 林業高校生交流会

林業学校生との交流会が開かれました。日本の高校生たちがそれぞれの出し物を披露しました。私たちは草原情歌を中国語で歌いました。(写真-13) 宜昌林業高校生(写真-14、15)の踊りや歌は素晴らしく、熱烈歓迎ぶりが感じられました。見事な衣装はクラブ活動の一環として生徒が手作りをしたものだそうです



(写真-13)



(写真-14)

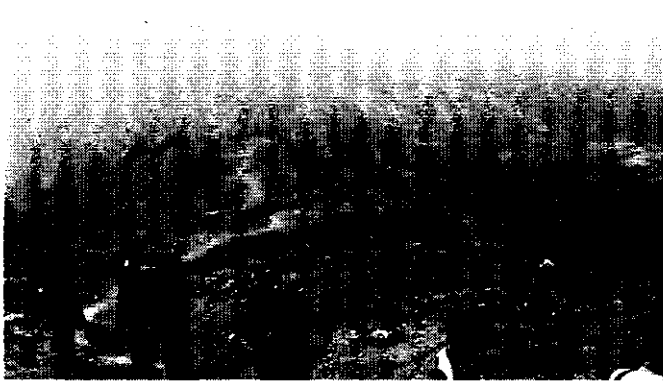


(写真-15)

(6) 分郷緑化実験地 (写真-16)

長江の支流域にあり、毛沢東時代の改革による鉄鋼生産増大のため森林伐採が激しく行われ、森林が消失してしまい、雨季に降る大量の雨で土砂が著しく流失し、有機物の供給がまったくないため (写真-17)、10年以上植林をしているが失敗を繰り返しているとのこと。

現在は山口大学の丸本教授の指導のもと、地表に穴を掘って麻などでできた袋に苗木と土や菌根菌、種子、肥料などを入れて、定植するバック工法 (写真-18)により、土壌の固定と養分改善をはかる方法により植生の改善につとめ、一定の成果をあげています。



(写真-16) 分郷緑化実験地



(写真-17) 有機物がない様子



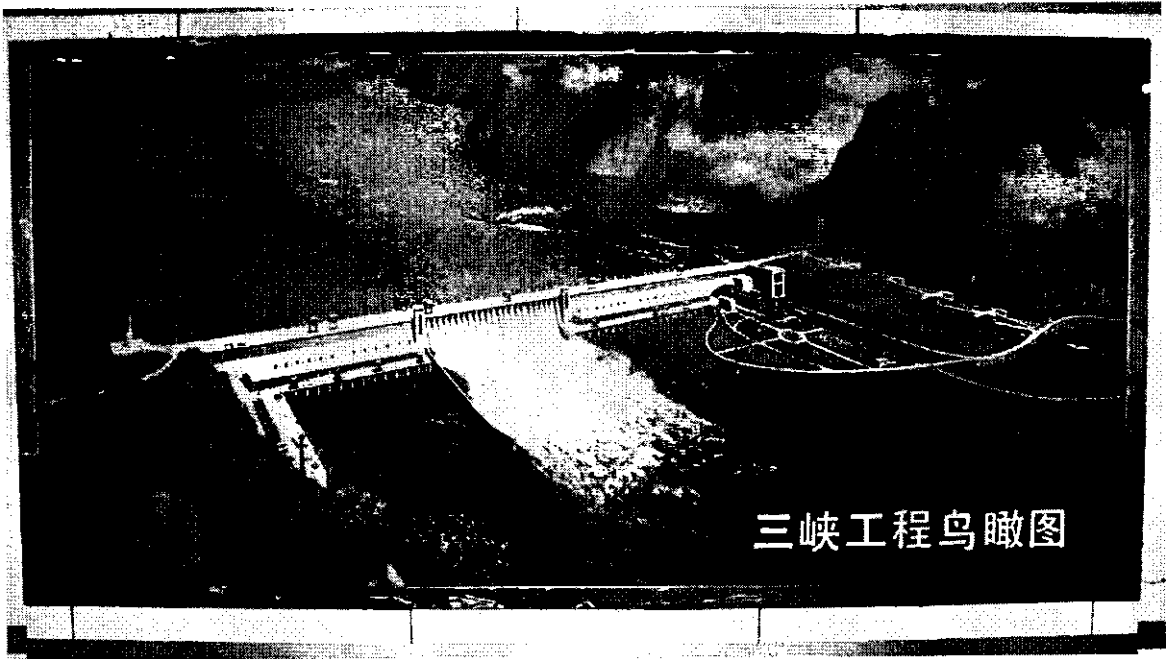
(写真-18) バック工法

(7) 三峡ダム見学

三国志ゆかりの地で天下の絶景でもある三峡に洪水防止と発電のために建設されている世界最大のダムです (写真-19)。2009年に完成するそうです。完成すれば堤防の長さ2039m、堤防の高さ175m、総貯水量393億立方メートル、になり、流域住民の約120万人が移住することになるとのことです。

ダムの目的は長江の洪水防止と中国全土の約十二分の一にあたる年間発電量847億kwの発電と水深確保による大型船の航行を可能にするためで、2000億元以上・日本円で3兆円に相当する金額をかけた国家

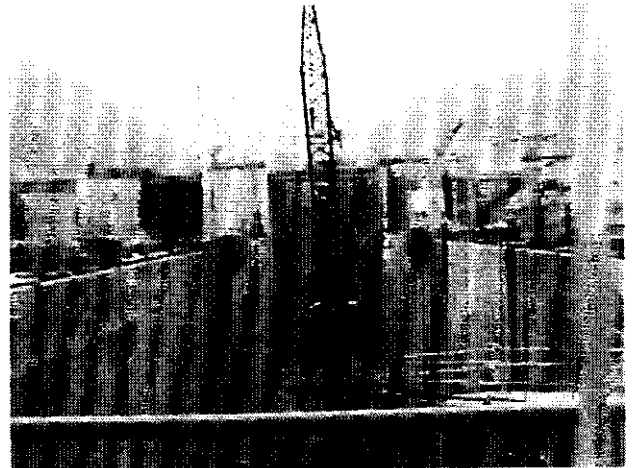
プロジェクトです。あらためて中国のスケールの大きさを感しましたが、環境破壊と言われていることもあり、環境保護か水害対策か考えさせられるところです。



三峡工程鸟瞰图

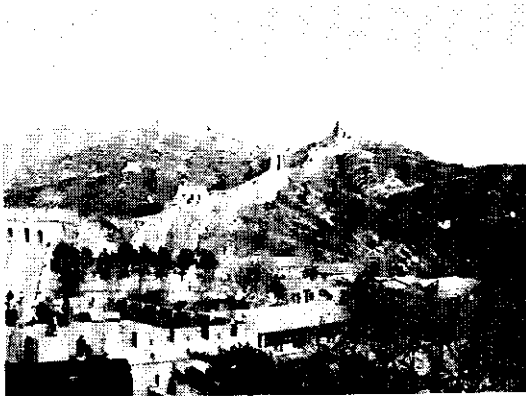
(写真-19) 三峡ダム鳥瞰図

成都にむかう大型船を通すためのゲートを工事(写真-20、21)している現場の様子です。



(写真-20、21) ゲート工事

(8) 万里の長城 (写真-22、23)



(写真-22)



(写真-23)

2日目の午後に万里の長城を見学しました。中国の歴史的な建造物に肌でふれることができ大変感激しましたが、その周辺の緑化事業の規模の大きさに中国のエネルギーを感じました。

### 3 研修成果

五日間というたいへん短い期間の中で次のような研修成果を得ることができました。

- ①日本の気候帯に近い温帯林から亜熱帯林の植生の見学ができたこと。
- ②荒廃地の緑化技術を見学することにより、中国の緑化に対する熱意を感じたこと。
- ③世界最大の万里の長城や三峡ダムとその周辺の森林を見学し、森林のもつ環境上、防災上の機能について学ぶことができた。
- ④同世代の宜昌林業高校生との交流により、真に国際交流が経験できたこと。
- ⑤ナマの国際協力を肌で感じることができた。

など、たいへん意義のある五日間でした。

おわりに

自然保護は大切なことだと頭では理解していたつもりでしたが、肌で痛感した5日間の研修は多くの感動と課題をくれました。進む砂漠化、森林の減少、酸性雨、オゾン層の破壊など森林資源を整備充実し生態系を保全することは中国だけでなく地球全体で早急に取り組むべき問題です。地球のほころびを直すことはふるさとを守ることだと、この研修を通して強く思いました。

私は今回のこの貴重な体験から、森林林業に対する関心がより強く深まり、さらに勉強したいと考えるようになり、大学で熱帯林について学びたいとおもっています。

最後になりましたが、この研修を主催していただいた(社)国土緑化推進機構、中国緑化基金会、(財)オイスカ、現地の皆さん、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。私たちはこの中国研修に参加するという貴重な体験をさせていただいたことをうれしく思います。素晴らしい研修をありがとうございました。